

農薬散布の多くなる7～9月における

蜜蜂飼育者の皆さんへ

## 蜜蜂被害軽減対策について

◆ 蜜蜂のへい死のうち農薬が原因だと思われる被害は、**水稻の開花期前後のカメムシ防除に使用した殺虫剤を直接浴びたことが原因の可能性が高い**と農林水産省の全国調査で示されました。

(農林水産省: [http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n\\_mitubati/honeybee.html](http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_mitubati/honeybee.html))

一方、県内では、果樹園などが付近にある場所で飼養している蜜蜂で、農薬が原因と考えられる死亡事例の報告があります。



●ミツバチへい死とは・・・

巣門前でミツバチが大量に死亡して山のように蓄積する現象。

舌を出した状態で死んでいる。



水稻開花期及びその2週間前後において、蜜蜂が水田に飛来することがあります。

◆カメムシ防除用殺虫剤に暴露する可能性の高い農薬散布時期及び**水稻開花時期の前後2週間においては、可能な限り水田付近での飼養を避ける**ようにしてください。

水稻開花時期 ・早期(板倉町の一部) 7月下旬～8月初旬  
・早植え(北毛、中山間、平坦部) 8月上旬～中旬  
・普通期(平坦部二毛作地域) 8月下旬～9月初旬

◆カメムシ防除用殺虫剤の使用状況及び時期は地域ごとに異なります。詳しくは、JAまたは農業事務所(普及指導課、地区農業指導センター)に御確認ください。

◆野菜・果樹・花等が飼養場所付近にある場合にも注意が必要です。**農薬使用者と情報共有を行い**、農薬の散布時には必要に応じて巣箱の退避等も行ってください。また、果樹園の近くで飼育する場合、果樹園の下草の開花時期にも注意が必要です。

◆蜜蜂へい死の被害があった場合には、早めに家畜保健衛生所までご連絡ください。

窓  
口

蜜蜂に関しては、  
中部家畜保健衛生所  
農薬に関しては、中部農業事務所  
普及指導課  
渋川地区農業指導センター  
伊勢崎地区農業指導センター

電話:027-288-0371

電話:027-233-9255

電話:0279-23-1321

電話:0270-25-1252

